

○年○月○日。益々地盤沈下深刻。

住宅地の水田に、タレ水区域が増大し、農業用水路にも被害が出て耕作不能となる。

○年○月○日。井戸の規制強化。

揚水量に制限がされ、新規掘削は禁止、給水車増車の予算通る。

○年○月○日。水道の給水制限始まる。

時間給水が実施され、真夏であるのにプールは勿論、風呂にも入れないようになる。天水、取水装置が爆発的売れ行きを示す。

○年○月○日。水田放棄増大。

霞ヶ浦からの取水が駄目で、さらに井戸も難しくなつて水田耕作は破滅に頻す。

○年○月○日。ハス大暴落。

ハス田が増大し、ハスの生産が数十倍になったため大暴落、呆然とする農民達。

「何もいうことがなくなつたわ。」

○年○月○日。無水農業を特励。

水を使わない農業を真剣に考える時来る。

○年○月○日。水を求めて疎開。

水のない生活にいやがさし、桜川上流へ移転をする市民も現れる。水田の宅地化と重なって暴落する地価も

停滯気味となる。関東の奇跡。

○年○月○日。工場も疎開か。

工場の中にも地下水規制の強化や用水汚濁のために移転を考えるものが現れる。

○年○月○日。逆水門開く。

霞ヶ浦の水を使わなくなつたために、水位が上り地盤沈下地帯などに浸水の危険が生じたので逆水門を開く。

銚子ではそのために臭くて市民が一晚中寝れない夜を過ごす。水門に押しかけ閉めると叫ぶ。

○年○月○日。霞ヶ浦砂漠に雨乞いブーム。

水は目の前に満々とあるが、使えず、井戸水も汲めず炎天の中で天水を期待する雨乞いが霞ヶ浦周辺で大流行。雨が降ると驚喜乱舞する住民の姿が見られる。

この夏も暑い。のどが焼けそうだ。その時、ザ！と夕立が降ってきた。「ワァー、これでお風呂に入れるわ。」

そう霞は思った。その途端、階下から「夕立よ！センチタク物を入れて丁載」という母の声に、霞は目が覚めた。

夢だったのだ。いつの間にか寝てしまったらしい。それにしても：：しばらくは立上る気も起らない霞だった。

筆者注：この物語はフィクションのつもりで書いていたのですが、書いているうちに現実の方がどどんと追いかけてきました。来年はどこまで進むのか、空恐ろしい想いです。